

9. 河川管理

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的機能を十分に発揮させるよう適切に行うものとする。

9-1 管理区間

国が管理しているのは、本川芦田川 53.2km、支川高屋川 5.85km、支川宇津戸川 2.1km の、総直轄管理区間 61.15km である。



出典：福山河川国道事務所資料



中国地方

図 9-1 芦田川水系直轄管理区間

9-2 河川管理施設

芦田川流域における河川施設は表 9-1 に示すとおりである。また、主要な河道内工作物を表 9-2 に示した。

河川管理施設としては、堤防護岸等の他、樋門・樋管、排水機場、床固等があり、これら河川管理施設の状況を把握し、適正な処置を講じるため、巡視、点検を実施するとともに、利水者や沿川自治体と合同で出水前や臨時、定期的な点検を行っている。

表 9-1 直轄管理区間堤防整備状況

直轄管理区 間延長	施工例2条7 号区間延長	堤防延長(km)				
		完成堤防	暫定堤防	未施行区間	不必要区間	計
48.9	0.0	46.9	21.8	11.6	20.7	101.0
比率(%)		58.4	27.2	14.4	—	100.0

出典：河川便覧 2002 国土交通省資料

表 9-2 直轄管理区間水閘門等河川管理施設整備状況（平成 15 年 8 月現在）

堰	床固	排水機場	樋門樋管	陸閘	計
17	6	4	91	10	128

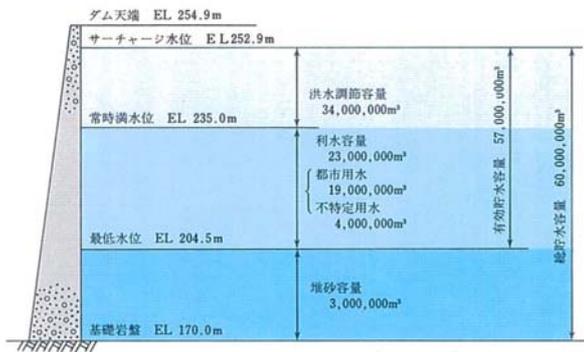
出典：福山河川国道事務所資料

(1) 代表的な河川構造物

直轄管理ダム 八田原ダム

芦田川の河口より約43kmの位置する八田原ダムは、洪水調節、流水の正常な機能の維持、都市用水やかんがい用水の補給などを目的として平成10年3月に完成した多目的ダムである。

貯水池容量配分図



八田原ダム



出典：芦田川 八田原ダムパンフレット

出典：福山河川国道事務所資料

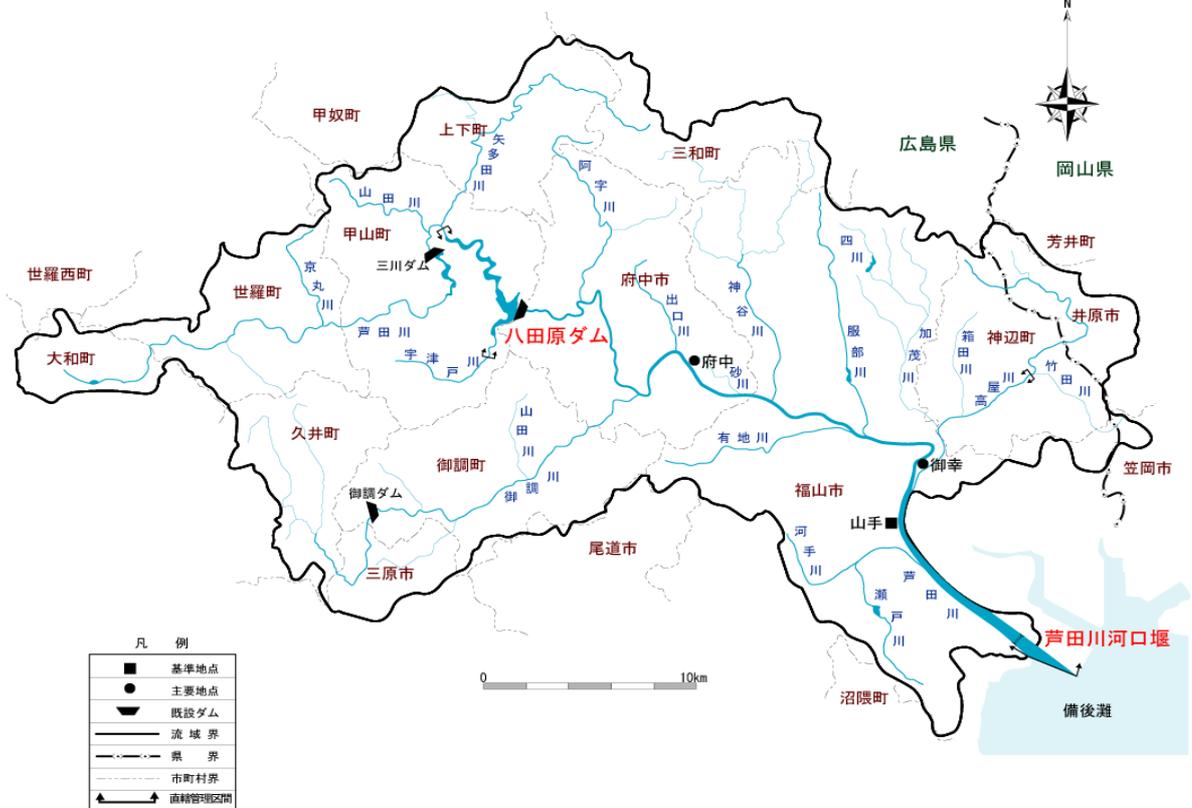


図 9-2 芦田川水系における代表的な河川構造物

芦田川河口堰

芦田川河口堰は、洪水の流下に必要な河積の確保および福山臨海工業地帯に、工業用水を供給するための多目的な堰として建設されたもので、昭和 47 年 4 月から工事を開始し、昭和 56 年 6 月に完成した可動堰である。

堰は、本体部分が全長 450m あり、主ゲート 10 門(1 門の幅 41.3m)からなる。

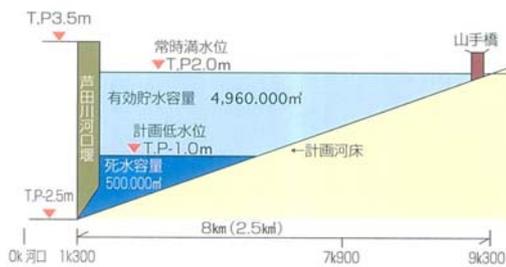
左岸側には、魚道ゲート、魚道・流量調整ゲート、流量調整ゲートがあり、右岸側には、竹ヶ端水門、右岸魚道がある。

芦田川河口堰

位置	(左岸)福山市箕島町字釣ヶ端地先 (右岸)福山市水呑町字竹ヶ端地先
形式	可動堰
全長	450m
主ゲート	鋼製ローラーゲート 10門
流量調整ゲート	鋼製フラットゲート 1門
魚道・流量調整ゲート	鋼製フラットゲート 1門
魚道ゲート	連動鋼製フラットゲート(上流側 6連) 1式 鋼製フラットゲート 1門
右岸魚道	舟通しデニール式魚道 123m



貯水池容量図



出典：芦田川河口堰パンフレット

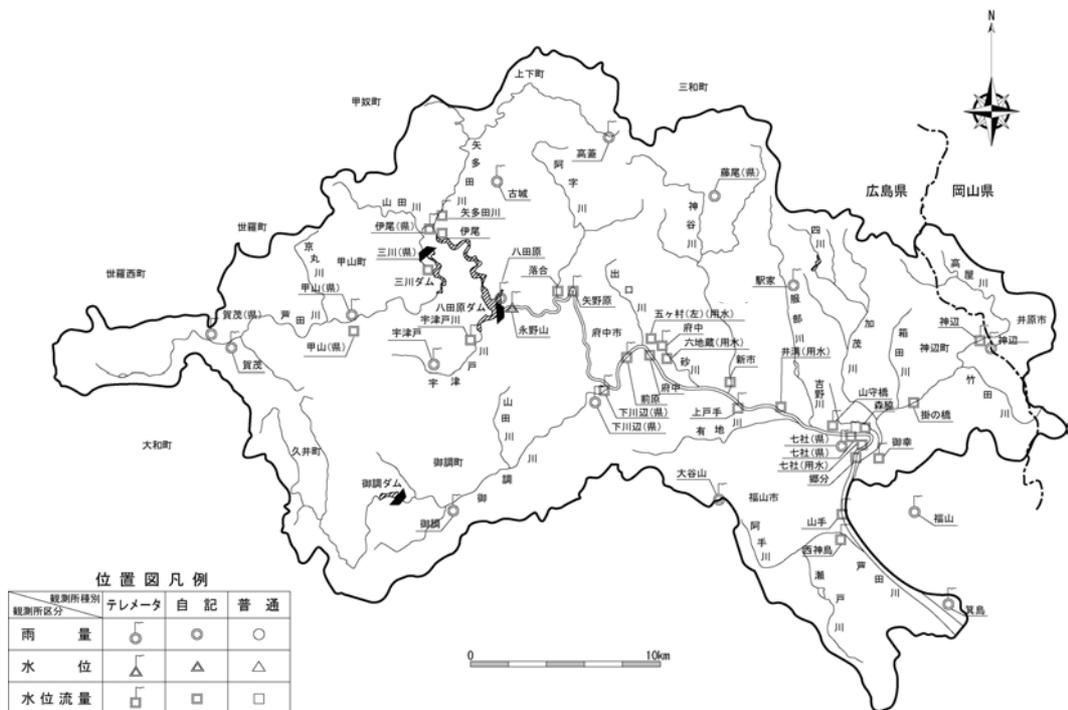
9-3 河川情報管理状況

芦田川流域においては、以下のような河川等管理用光ファイバーネットワーク整備を行い、洪水・高潮来襲時の河川等管理施設の遠隔操作、リアルタイムの情報提供等、河川等管理の高度化・効率化を図り、安全な地域づくりに役立てる。さらに、一部を民間に開放することにより、生活・産業基盤の情報ネットワークの整備を支援するものとする。また、芦田川流域における水文観測所（水位及び雨量、流量観測所）の位置を図に示す。



図 9-3 河川等管理用光ファイバーネットワーク整備

出典：福山河川国道事務所資料



出典：福山河川国道事務所資料

図 9-4 芦田川流域内にある雨量計および水位計

9-4 水防体制

洪水時に河川が氾濫すると、地域の人々の生命・財産をはじめとして、多大な被害を生じることになるため、芦田川の洪水調節施設の効果的な管理・運営を行うとともに、一層の洪水予報の精度向上や水防活動等ソフト面での充実を行い、洪水被害の軽減を図っていく必要がある。

(1) 水防警報、洪水予報の状況

芦田川流域内に雨量観測所・水位観測所を設置し、光ファイバーや無線等により迅速に情報収集するとともに、洪水の被害を軽減するため、気象庁と観測データ等の共有を図り、共同で洪水予報を実施している。

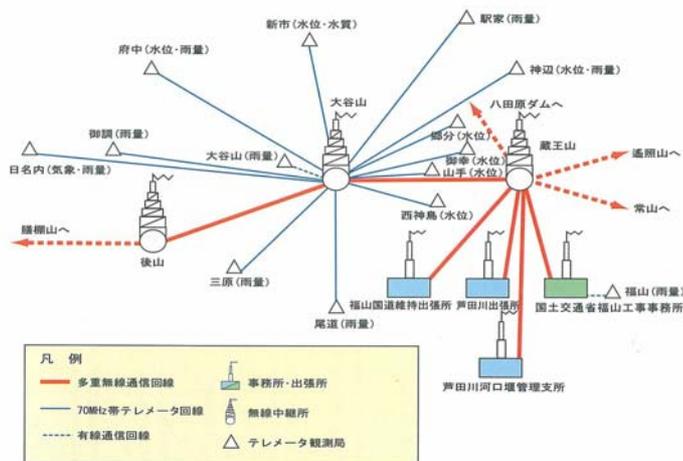


図 9-5 通信ネットワーク

蔵王山無線中継局

出典：福山河川国道事務所資料

(2) 浸水想定区域図の公表

平成 13 年 7 月に水防法が一部改正されたことにより、洪水予報河川について浸水想定区域を指定・公表することとなったため、芦田川水系では、平成 14 年 3 月 15 日付けで芦田川本川および支川高屋川における浸水想定区域図の公表を行っている。

(3) 洪水ハザードマップ作成支援

芦田川流域内では、福山市及び府中市において避難所等が記載された「洪水ハザードマップ」が作成、公表されている。

今後、「洪水ハザードマップ」未作成の市町村へ支援を行うことにより、さらなる活用を行い、洪水被害の低減に努める。

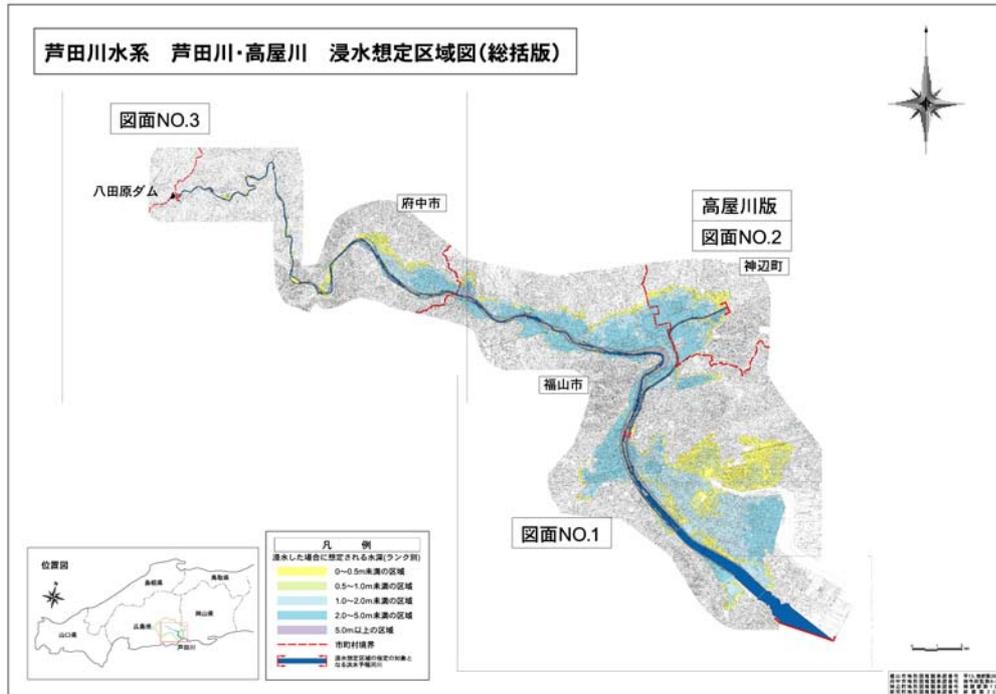


図 9-6 浸水想定区域の公表

福山市洪水ハザードマップ

福山市洪水ハザードマップとは・・・

芦田川及び高屋川が100年に1回程度、神谷川・瀬戸川・手城川・本郷川・羽原川・新川・藤井川・服部川・加茂川・吉野川・有地川・西谷川が10年～80年に1回程度起こる大雨で、仮に堤防が決壊するとした場合の浸水予測に基づいて、住民の皆さんの避難に役立つよう作製した地図です。いざというときに備え、日頃から避難場所や避難経路などの確認に利用してください。

避難地区番号をクリックして下さい

[ハザードマップの詳細・水害時の心得・情報伝達経路などはこちらへ](#)

[避難所一覧はこちらへ](#)

図 9-7 洪水ハザードマップ作成事例（福山市）

出典：福山市HP

9-5 地域との連携

河川愛護月間等における行事、水防演習、各種イベント等を通じて、河川愛護、河川美化等の思想の普及や啓発に努めるとともに、河川に関する広報活動を強化し、治水・利水・環境に関する知識の向上や啓水、親水思想の高揚を図っている。特に、備後の一級河川である芦田川を多くの人に知ってもらい、「誰でも自由に学習できる場所」を目的に、展示等を行っている「芦田川見る見る館」がある。

また、地域住民の一人一人が、芦田川の現状と課題を自らの問題として認識し、流域全体で問題解決に当たるために、また、川の優れた環境等、価値を流域住民に認識してもらうためにも、情報の公開や提供、行動情報等、共有化を進め、開かれた河川整備の推進や災害被害の防止、河川の管理の効率化に努めている。

河川の特長や地域のニーズを反映させた河川整備の実現を目指し、地域住民の主体的参加の場や創出に努め、関係機関との連携の強化に努めている。



クリーン作戦

出典：福山河川国道事務所資料



稚魚の放流

出典：福山河川国道事務所資料



芦田川見る見る館

出典：福山河川国道事務所資料



芦田川見る見る館（利用状況）

出典：福山河川国道事務所資料

9-6 河川管理の今後の課題

芦田川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的な機能を十分に発揮できるよう適切に行う。

河川敷地内の樹木の管理

芦田川本川の河道内に繁茂するヤナギ等の樹木が河川の流下能力を著しく低下させていることから、流下能力の低い箇所から生態系にも配慮しつつ、順次計画的に除去していく。また、堤体が砂等でできており、出水により水嵩が上がると漏水等の不測の事態が生じることがあるため、流水阻害となっている箇所は樹木の伐採のサイクルを早め、それ以外の場所については自然環境・生物の保全を配慮しながら順次伐採を行う。なお、寄州・中州の堆積砂についても著しく流下能力の低い箇所から樹木と同様に除去を行う。



河道内樹木の繁茂状況（有地川合流部付近）

出典：福山河川国道事務所資料

河川利用上の課題

洪水の安全な流下という機能の維持と合わせて、スポーツ、レクリエーション活動、水と緑のオープンスペースとしての河川利用等の多様な要請に応じられるよう、これらの相互の調整を図りつつ河川空間の適正な利用を図っている。

また、河川の利用、保全が適正に実施されるよう、適切な頻度で平常時の河川巡視や利用状況等の調査を実施し、河川環境の整備と保全に適切に対処していく必要がある。